

日本での交換留学

Keimyung University
SHIN JIWON

この学期は、初めて海外暮らしを始めるとともに初めて一人暮らしをした学期です。初めて自分一人のために住所登録をしてみても、初めて保険などを払いました。一人でしなければならないものが多くて最初は難しいと感じましたし少し戸惑いましたが今はだいぶ慣れました。

授業の進み方、課題と試験の仕方が違って最初は授業の様式についていくのが大変でした。12月になったようやく日本の授業方式が見えてきました。それにつれ、12月からは授業内容の理解度も上がりました。リアクションペーパーや授業内課題を提出する科目が多くて、質問がない時は質問を練るのは私にとって新しい経験でした。総合的な課題の量は日本が圧倒的に多いですが、難易度や各課題にかかる時間は少なく、一度に大きな課題を提出する韓国の方式より小さい課題を複数回提出する日本の方式が成績を集めたり、挽回したりするのにもっといいと感じました。中間試験はオープンブック、もしくは試験がない科目が多くて、期末と毎授業時の課題を中心に評価をしていると思いました。ですので期末試験は韓国より心理的に負担にもなりました。ですが期末をオープンブックにしたり、発表やレポートを期末試験代わりとするような科目もあって少しは余裕を持ってました。

学校の図書館で本も借りてみました。規模が考えてたより小さくてびっくりしましたが、ここでの生活をして小さい学校に似合う規模だと思いました。大学の図書館なのに国際基準ではなく日本の基準で本が並べられていて、本を探すのに大変苦労しました。そして書架案内もよくできてなくて各書架に貼られた案内を見ていちいち探さなくてはならなかったのがとても大変でした。あと、図書館のコンピュータも使ってみました。iMacで不思議でした。そして学生証を刺ないと作動しないシステムが韓国と違って不思議でした。そしてやっぱり作動が遅かったです。

使う言語、授業や学校生活の些細な方式、電車やバスの乗り継ぎ不可の点は違いましたが冬にパーカーなしで生きられて、食材も同じものや似てるものが多くてより遠くからきた学生よりは慣れやすかったのかもしれないと思っています。そして風邪を引いた時などにクッパやちゃんぽんを食べれていつもある程度の韓国食材や調味料を入手できる新大久保があって、韓国人が海外生活をするには東京は悪くない選択肢のひとつだと思います。

また、チューターさんは忙しかったのか、あまり話せなかったまま終わりましたが、国際課の職員たちは私がメールで質問したら丁寧に解決してくれてその点はありがたいと思っています。

ようやく少し慣れたのにもう学期の終わりというのが惜しいです。ですがそれ程私が貴重に感じた時間であったと思うとそう悪い気分ではありません。